

## 効果的な障害者就労移行支援プログラム形成に資する 評価人材を介した支援ネットワークの構築

—実践家参画型評価における実践家評価ファシリテーターの機能と役割に注目して—

○ 日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程 新藤 健太 (8608)

植村英晴 (日本社会事業大学・4001)、大島巖 (日本社会事業大学・228)、方真雅 (日本社会事業大学・8609)、

片山優美子 (長野大学・6862)

キーワード：プログラム形成評価、実践家参画型評価、評価を介した支援ネットワーク構築

### 1. 研究目的

近年、社会福祉など対人サービスの実践プログラム領域では、EBPを含む効果的なプログラムモデル形成への関心が高まっている。そして、効果的プログラムモデルを形成するためには、ランダム化比較試験(RCT)や比較による有効性研究(CER)によるプログラムの有効性の検証と共に、現場の実践家参画による継続的な改善や形成評価が必要である。特に、効果的プログラムモデルの実施に関する相談を受け付け、それらをサポートする“支援ネットワークの構築”が必要不可欠であり、支援ネットワークの構築においては、実践現場での実践に関わりながら、これらのサポートを行う“実践家評価ファシリテーター”が重要な役割を担うと考えられる。

そこで、本研究では、報告者が所属する効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会(以下、研究班<sup>1)</sup>(分担研究責任者 植村英晴)が行う“効果的障害者就労移行支援プログラム形成評価”の取り組みを取り上げ、効果的プログラムモデルの形成に重要な役割を担う実践家評価ファシリテーターの機能と役割に注目し、効果的プログラムモデルの支援ネットワークについて、そのあり方を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

本研究ではまず、実践家評価ファシリテーターの枠組みを構築するにあたり、既に実践家の参画によって、効果的プログラムモデルの形成や実施・普及の研究が進められている“家族心理教育プログラム<sup>1)</sup>”や“ACT(包括型地域生活支援)プログラム<sup>2)</sup>”の取り組みを参考にした。更に、研究班が活動を開始した当初から研究班の活動について協力的な事業所の実践家を対象に、実践家評価ファシリテーターとしての協力を依頼し、承諾を得られた実践家を対象に“評価ファシリテーター研修会”を実施し、2013年10月から実施した1年間の介入研究に、実践家評価ファシリテーターとして調査同行を依頼するとともに、調査対象事業所への調査結果のフィードバック等についても研究者と協働して行うよう依頼した。また、2014年3月と2014年8月に“評価ファシリテーター振り返り会”を開催し、実践家評価ファシリテーターとしての取り組みについて振り返りを行った。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会事業大学社会事業研究所研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。調査対象者には書面と口頭にて研究の趣旨、匿名性の確保、回答を拒否しても不利益はないこと、データは厳重に保管し、研究目的以外では使用しないことを説明し、同意を得た。尚、本報告に際しては、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき構成した。

### 4. 研究結果

実践家評価ファシリテーターとして研究への協力を依頼し、承諾を得られた12名の実践家を対象に評価ファシリテーター研修会を実施した結果、介入研究における1度目の調査（2013年10月に実施）では9名の実践家が、第2回目の調査（2014年6月に実施）では10名の実践家が“実践家評価ファシリテーター”として調査に同行し、各事業所における“効果的プログラムモデル”の実施に関する支援を行った。実践家評価ファシリテーターによる支援を受けた事業所では、第1回目の調査時に比べて、第2回目の調査時における効果的プログラムモデルの実施度が上昇し、それに伴ってプログラムの成果である“就労移行率”や“就労定着率”も上昇した。更に、調査終了後には調査対象事業所に対して調査結果に基づいたフィードバックを実施し、実践の向上に資する情報が提供された。また、調査への同行や評価ファシリテーター振り返り会での意見交換を通して、効果的プログラムモデルに追加を検討すべき、新たな要素（創意工夫の取り組み）の抽出や、介入研究に使用した評価ツール（効果的プログラムモデルの実施度を測定するための尺度等）の改善が行われた。

### 5. 考察

本研究の結果から、実践家評価ファシリテーターが参画することによって、効果的プログラムモデルの形成に関する重要な情報が得られると共に、実践現場に対しても取り組みの向上に資する貴重な情報を提供できることが明らかになった。一方で、これらは研究者との協働の中で得られた成果であり、効果的プログラムモデルの形成評価において、研究者及び研究機関と実践家評価ファシリテーターが連携した支援ネットワーク構築が期待され、そのネットワーク構築は、以後のより質の高い効果的なプログラムの実施・普及・発展に貢献するものと考えられる。

---

i 本研究は「実践家参画型プログラム評価の方法および評価教育法の開発とその有効性の検証（科学研究費補助金基盤研究A：代表 大島巖）による。

参考文献：

- 1) 心理教育・家族教室ネットワーク (<http://jnpf.net/>)
- 2) ACT 全国ネットワーク (<http://assertivecommunitytreatment.jp/>)